

2014年3月期 決算説明会

2014年5月13日

株式会社日本エム・ディ・エム

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

目次

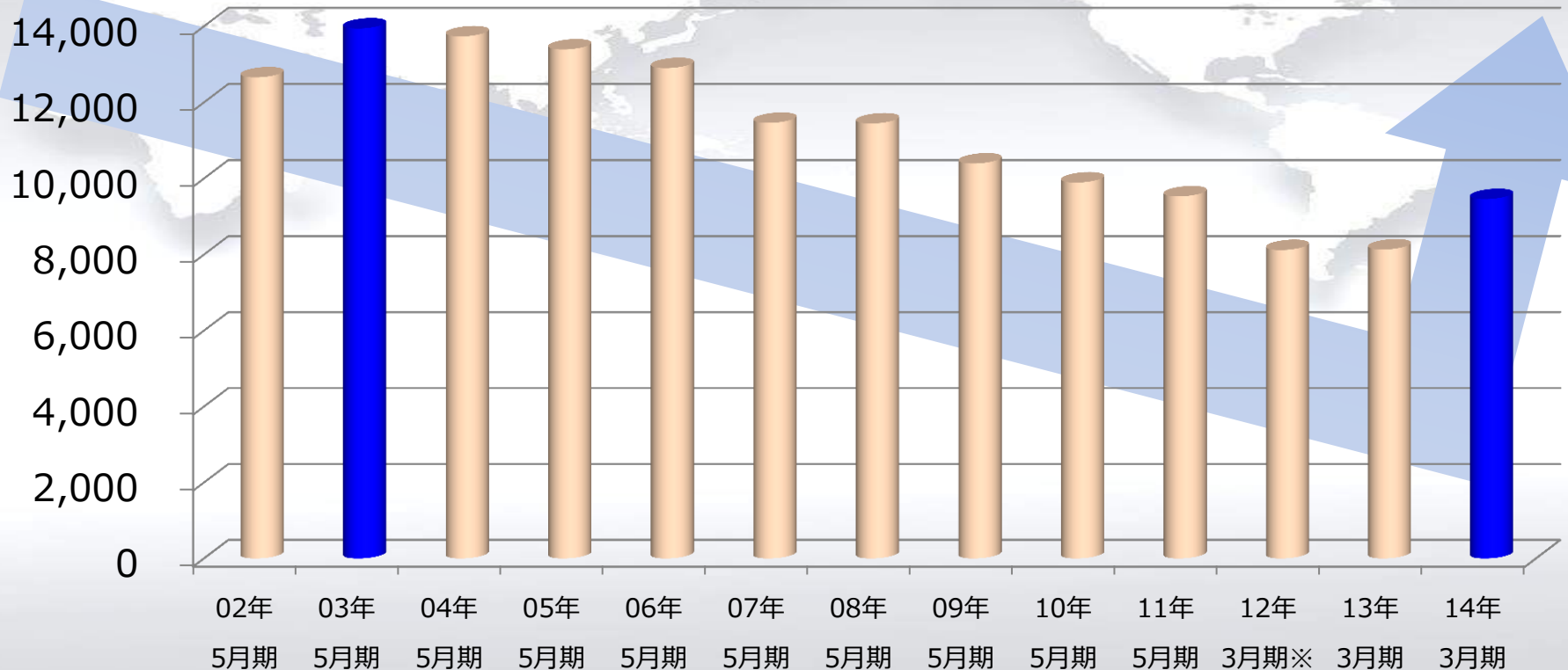
1.	2014年3月期連結決算結果		
	①成長路線への転換	...	3
	②連結損益計算書	...	4
	③主要品目別連結売上高	...	5
	④前期営業利益比較分析	...	6
2.	2014年3月期重要施策		
	①計画対比	...	7
	②取組み結果	...	8
3.	2015年3月期連結業績予想		
	①連結損益計算書	...	9
	②主要品目別連結売上高	...	10
	③計画営業利益比較分析	...	11
4.	Topics		
	①骨接合材料前期比較	...	12
	②21ヶ月連続、米国販売前年同月増を達成	...	13
	③人工膝関節自社新製品「Balanced Knee System-Momentum」・ 「E-Vitalize」の米国FDA薬事承認取得及び北米販売開始	...	14
	④スポーツ整形分野ArthroCare社製電気手術器械の販売開始	...	15
	⑤脊椎固定器具自社新製品「Pagoda スパイナル システム」の販売開始	...	16
5.	設備投資等推移	...	17

1.2014年3月期連結決算結果①

成長路線への転換

(単位：百万円)

(連結売上高推移)



※ 12年3月期は決算期変更による変則10ヶ月決算

1.2014年3月期連結決算結果②

連結損益計算書

(単位：百万円、%)

	2014年3月期		前期比増減		2013年3月期	
	実績	売上比	増減額	増減率	実績	売上比
売上高	9,459	100.0	+1,325	+16.3	8,134	100.0
売上原価	2,780	29.4	△ 55	△ 2.0	2,836	34.9
売上総利益	6,678	70.6	+1,380	+26.1	5,297	65.1
販管費	6,017	63.6	+566	+10.4	5,450	67.0
営業利益	661	7.0	+813	黒字化	△ 152	△ 1.9
営業外損益	△ 185	△ 2.0	+57	-	△ 243	△ 3.0
経常利益	475	5.0	+871	黒字化	△ 395	△ 4.9
特別損益	△ 62	△ 0.7	+2	-	△ 64	△ 0.8
当期純利益	286	3.0	+684	黒字化	△ 397	△ 4.9

1.2014年3月期連結決算結果③

主要品目別連結売上高

(単位：百万円、%)

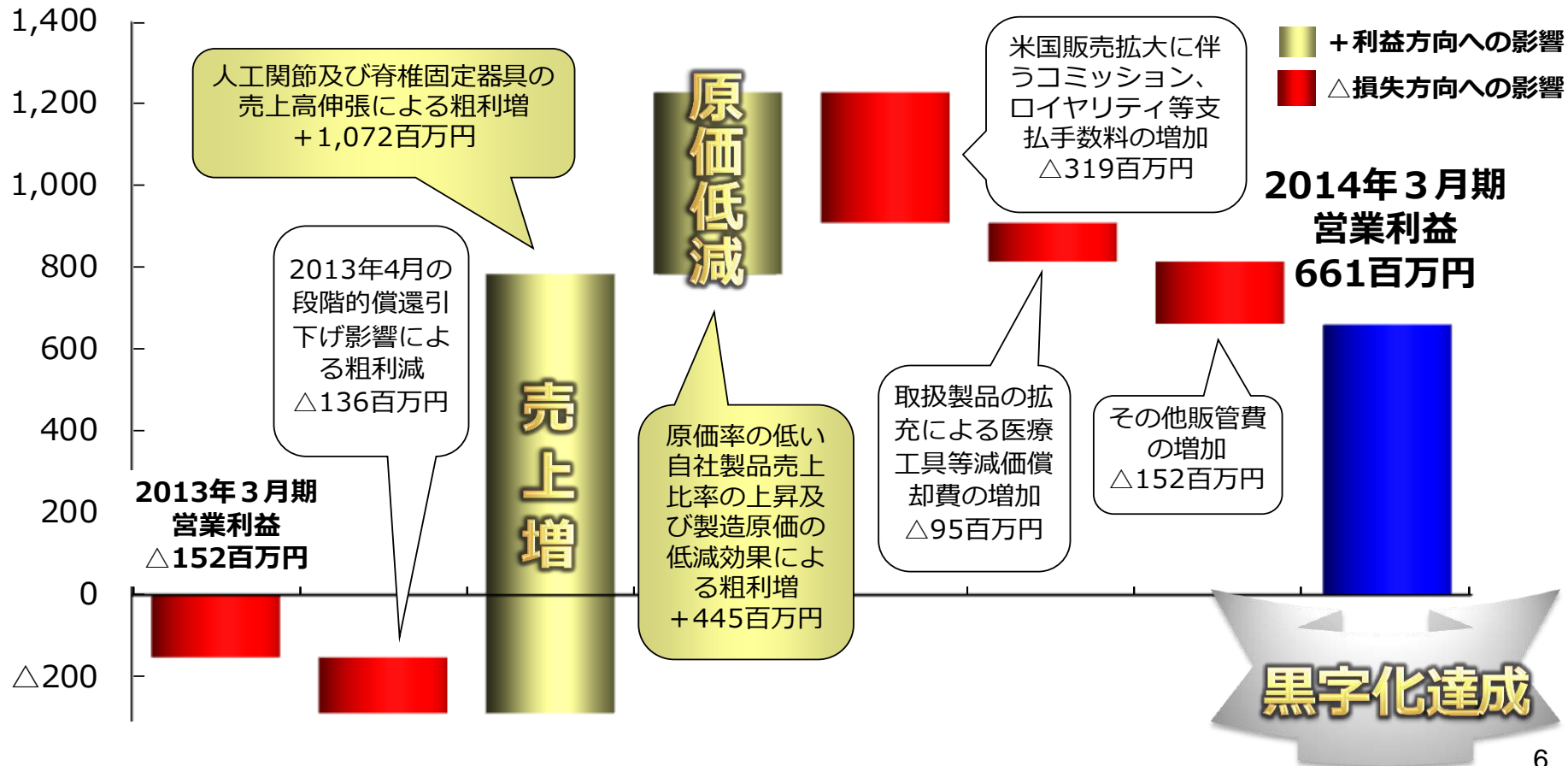
	2014年3月期		前期比増減		2013年3月期	
	実績	構成比	増減額	増減率	実績	構成比
日本国内販売	6,673	70.6	+394	+6.3	6,279	77.2
骨接合材料	2,349	24.8	△ 28	△ 1.2	2,378	29.2
人工関節	3,175	33.6	+348	+12.3	2,826	34.7
脊椎固定器具	557	5.9	+126	+29.3	431	5.3
その他	590	6.2	△ 51	△ 8.1	642	7.9
米国販売 (注)	2,785	29.4	+930	+50.2	1,855	22.8
人工関節	2,563	27.1	+914	+55.5	1,648	20.3
脊椎固定器具・その他	222	2.4	+16	+7.9	206	2.5
合計	9,459	100.0	+1,325	+16.3	8,134	100.0
自社製品売上高	7,039	74.4	+2,097	+42.5	4,941	60.7
(注) 米国販売額 (千ドル)	27,848		+5,558	+24.9	22,290	
(注) 換算レート (円)	99.99				83.23	



1.2014年3月期連結決算結果④

前期営業利益比較分析

(単位：百万円)



2.2014年3月期重要施策①

計画対比

2014年3月期は、売上高が順調に推移し、自社製品の製造原価の低減効果及び販管費を抑制したことで、売上高及び各段階利益で当初計画を上回った。


(単位：百万円、%)

連結	2014年3月期 計画	2014年3月期 実績	計画比 増減率
売上高	9,400	9,459	+0.6
営業利益	540	661	+22.5
経常利益	440	475	+8.1
当期純利益	200	286	+43.3

2.2014年3月期重要施策②

取組み結果

拡販およびコスト削減

- 顧客数の増加、医療従事者へのエデュケーションプログラム実施及び
主要在庫拡充効果により売上増を達成
- 人工膝関節自社新製品の米国FDA薬事承認取得及び北米販売開始
(4.Topics③)
- スポーツ整形分野電気手術器械の販売開始(4.Topics④)
- 脊椎固定器具自社新製品の販売開始(4.Topics⑤) 
- 内製化及び海外外注先の活用等により製造原価を低減
- サービスレベルを維持した経費削減を達成

海外市場の強化

- 新規顧客開拓の進展により継続成長を達成 (4.Topics②)
- 中国代理店候補先と継続交渉

SCMの強化

- 業務委託を推進し、効率化を達成

3.2015年3月期連結業績予想①

連結損益計算書

(単位：百万円、%)

	2015年3月期		前期比増減		2014年3月期	
	計画	売上比	増減額	増減率	実績	売上比
売上高	10,500	100.0	+1,040	+11.0	9,459	100.0
売上原価	2,860	27.2	+79	+2.8	2,780	29.4
売上総利益	7,640	72.8	+961	+14.4	6,678	70.6
販管費	6,720	64.0	+702	+11.7	6,017	63.6
営業利益	920	8.8	+258	+39.1	661	7.0
営業外損益	△ 220	△ 2.1	△ 34	+18.5	△ 185	△ 2.0
経常利益	700	6.7	+224	+47.1	475	5.0
特別損益	△ 60	△ 0.6	+2	△ 3.7	△ 62	△ 0.7
当期純利益	400	3.8	+113	+39.5	286	3.0

3.2015年3月期連結業績予想②

主要品目別連結売上高

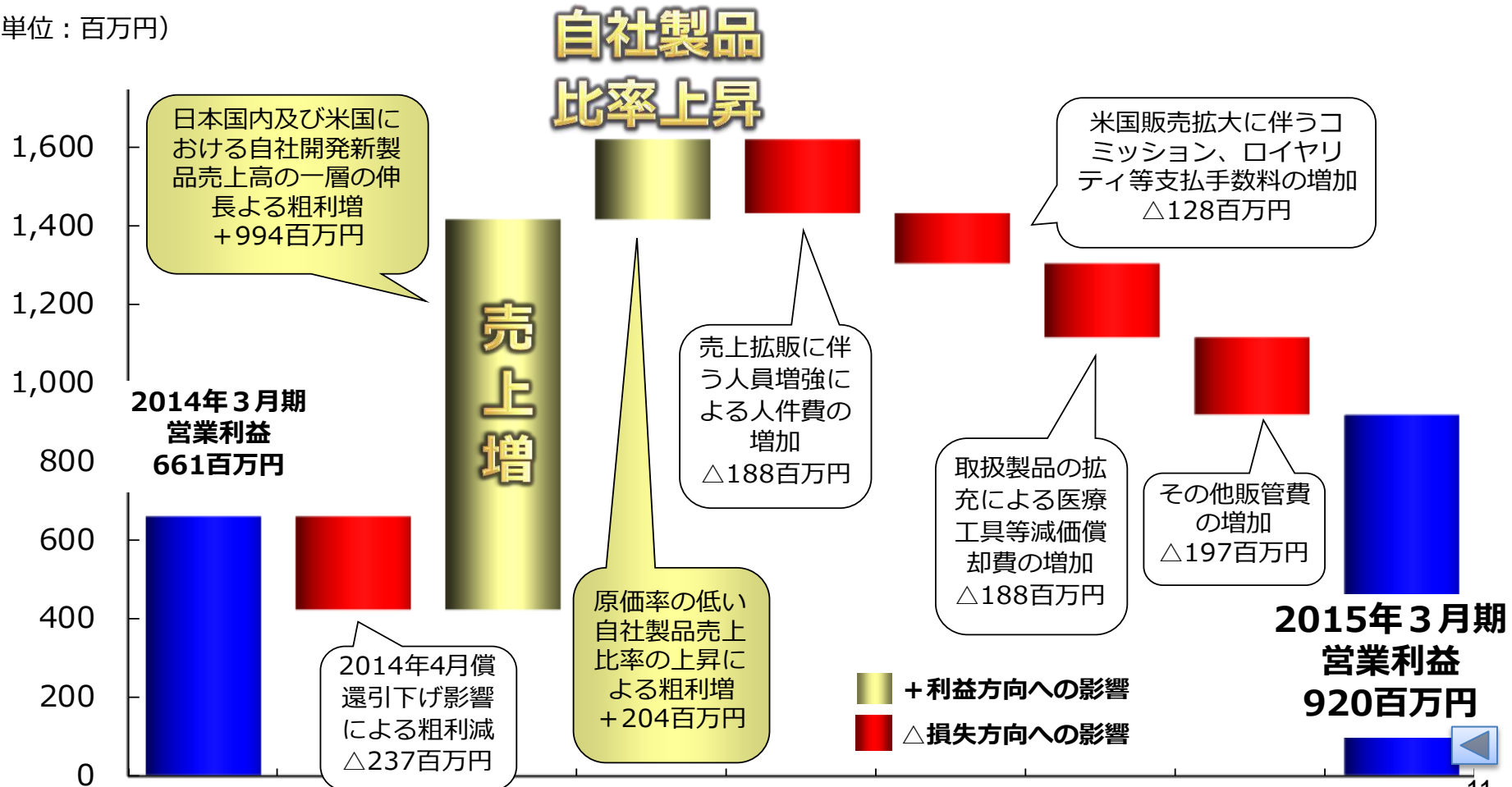
(単位：百万円、%)

	2015年3月期		前期比増減		2014年3月期	
	計画	構成比	増減額	増減率	実績	構成比
骨接合材料	2,600	24.8	+250	+10.7	2,349	24.8
人工関節	6,250	59.5	+511	+8.9	5,738	60.7
脊椎固定器具	990	9.4	+211	+27.2	778	8.2
その他	660	6.3	+67	+11.4	592	6.3
合計	10,500	100.0	+1,040	+11.0	9,459	100.0
自社製品売上高	8,490	80.9	+1,450	+20.6	7,039	74.4
(注) 換算レート (円)	102.00				99.99	

3.2015年3月期連結業績予想③

計画営業利益比較分析

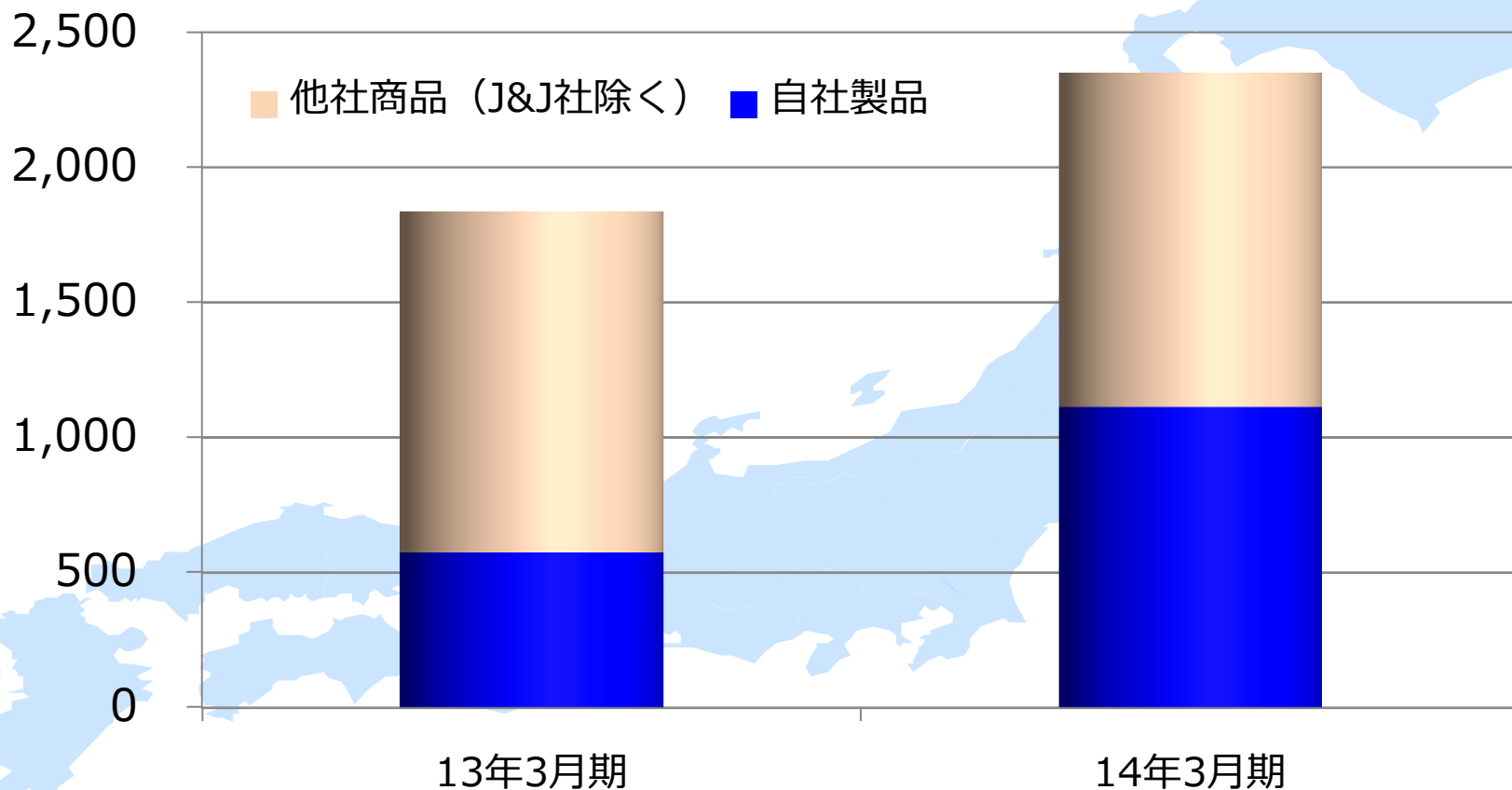
(単位：百万円)



4.Topics①

骨接合材料前期比較

(単位：百万円)



4.Topics②

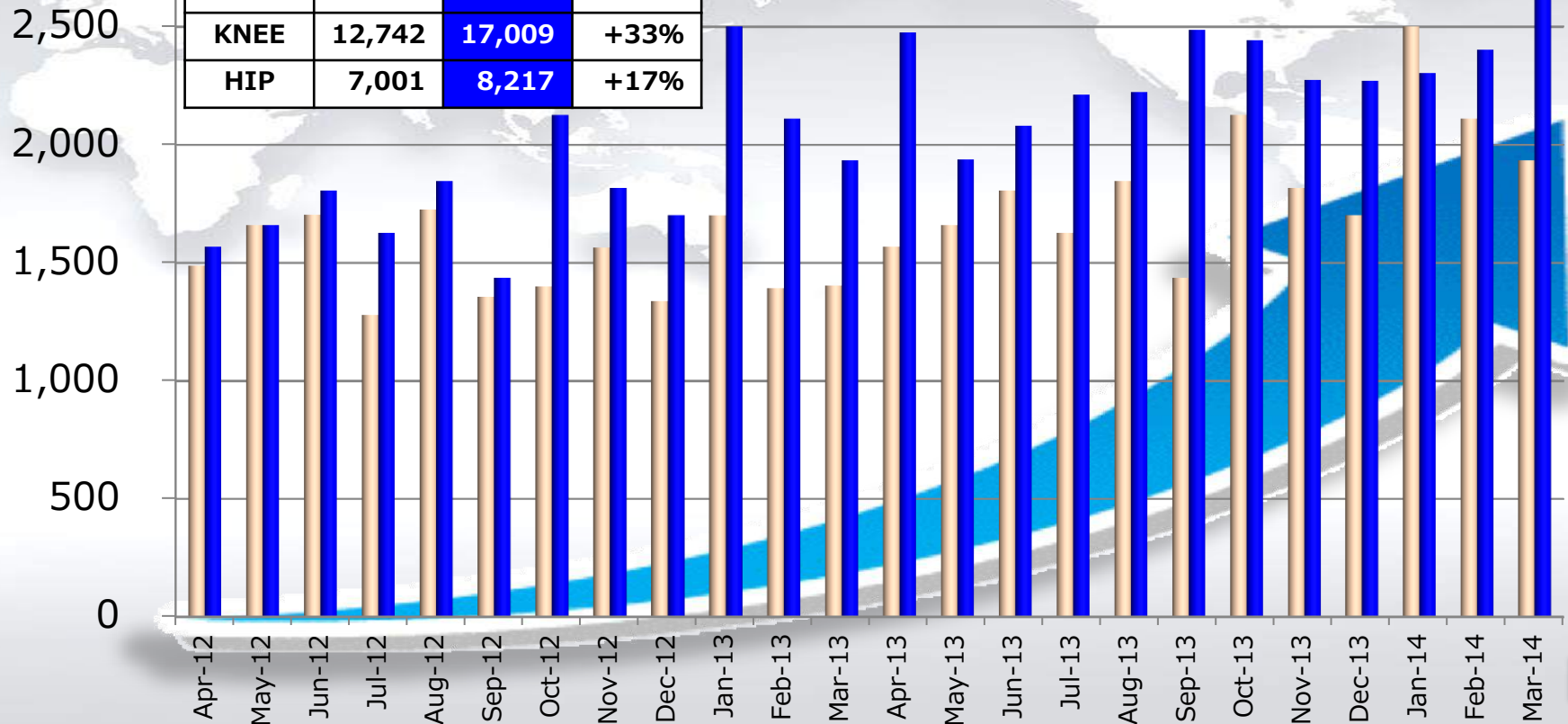
21ヶ月連続 米国販売前年同月増を達成

(参考) 主要品目売上高累計

(単位：千ドル)

	13年 3月期	14年 3月期	前期 増減率
KNEE	12,742	17,009	+33%
HIP	7,001	8,217	+17%

前年同月 当月



4.Topics③

人工膝関節自社新製品 「Balanced Knee System-Momentum」・ 「E-Vitalize」の 米国FDA薬事承認取得及び北米販売開始

「Balanced Knee System-Momentum」は、より深い膝関節の屈曲を可能としたHigh-Flexタイプの人工膝関節。また「E-Vitalize」は、人工関節に用いられるポリエチレン（UHMWPE）に抗酸化能を有するビタミンEを添加することにより、ポリエチレンの酸化による劣化を抑制し、耐久性と耐摩耗特性の向上を実現。患者様のQOL向上及び多くの医療従事者の要望への対応が可能となり、米国での人工膝関節販売の拡大が大いに期待できる。



4.Topics④

スポーツ整形分野 ArthroCare社製電気手術器械 の販売開始

幅広い疾患並びに多様化する医師をはじめとした医療従事者のニーズに応えるべく、昨今の整形外科分野で需要の高い低侵襲手術に使用する関節鏡周辺機器（スポーツ整形分野）を拡充し、前期より販売を開始したカールストルツ社製関節鏡製品とのシナジー効果を大いに期待し、更なる事業の拡大を図る。

カールストルツ社製
内視鏡システム



ArthroCare社製
電気手術器械

RF Wands 先端



システム全体
(ATLAS R System)



RF Controller
(Quantum™ 2 System)



4.Topics⑤

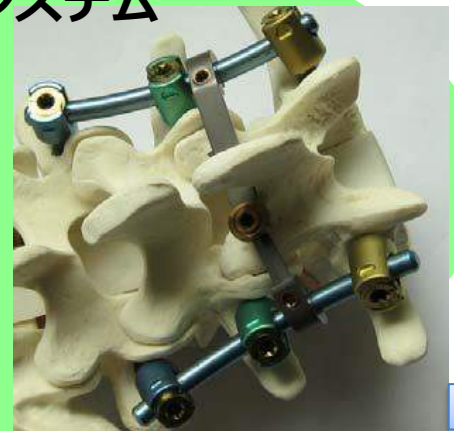
脊椎固定器具自社新製品 「Pagoda スパイナル システム」 の販売開始

毎年伸張し続けている整形外科市場の中でも有望な脊椎固定器具市場において、脊椎の胸腰椎部に生じる椎体骨折及び変性疾患（脊柱管狭窄症、変性側弯症、腰椎すべり症、腰椎分離症等）に使用する製品で、前期に販売開始した「Vusion OS インターボディ Cage」及びその他の脊椎固定器具製品とのシナジー効果が大いに期待できる。

2012年10月
Vusion OS インターボディ Cage



Pagoda スパイナル システム



5. 設備投資等推移

2010年 5月期 実績	2011年 5月期 実績	2012年 3月期 実績※2	2013年 3月期 実績	2014年 3月期 実績	2015年 3月期 計画
--------------------	--------------------	----------------------	--------------------	--------------------	--------------------

(単位：百万円)

設備投資	780	836	888	1,673	1,351	1,343
減価償却費 ※1	960	826	673	804	927	1,055
研究開発費	148	246	214	336	326	368

※1 製造原価算入の減価償却費を含むため、損益計算書上の「減価償却費」とは一致しておりません。

※2 2012年3月期は決算期変更による変則10ヶ月決算。